

2025 年日本岡山商科大学孔子学院理事会開催

6 月 30 日、岡山商科大学学長兼孔子学院理事長の井尻昭夫氏をはじめとする代表团一行が大連外国語大学を訪問し、大学間協力の深化と孔子学院の質の高い発展について深く交流を行い、2025 年岡山商科大学孔子学院理事会を開催した。日本側は、井尻昭夫理事長、孔子学院黎曉妮学院長、韓雲冬副学院長、佐々木皓平事務局長が出席。中国側は大連外国語大学叢明才学長、劉風光副学長、孔子学院事務処華媛媛処長、日本語学院趙彦民学院長、孔子学院孟海霞中国側学院長及び関連部門の責任者が理事会に出席した。



叢明才学長は会見で、「1996 年に両大学が友好協力関係を樹立して以来、両校は教員と学生の交流、学術協力、文化交流活動などの分野で多くの成果を収めてきた。特に 2007 年に孔子学院を設立して以来、協力のレベルが絶えず高まっている」と強調した。井尻昭夫理事長は大連外大に対し、長年にわたる支援に真摯な感謝の意を表し、両大学の 30 年近くの友好協力の歴史、特に孔子学院が設立されて以来、中国語教育の展開、日中文化交流の面においても顕著な成果を上げてきたことを温かく振り返った。

会見に続いて、2025 年孔子学院理事会が開催された。理事会の冒頭、両校代

表者の挨拶で、叢学長は、井尻理事長が長年にわたり両大学の交流と孔子学院の発展のために卓越した貢献をしてきたことに対し、感謝の意を表した。特に、昨年の大連外大創立 60 周年の際、井尻理事長がお祝いのために遠路はるばる大連に訪れ、記念式典に参加したことは、両大学の提携と友情への重視を表しているとした。また、井尻理事長は、岡山商科大学は言語教育と文化活動を通して掛け橋となるという初心を持ち、今後も孔子学院の発展を支援し、日中の人的文化的交流の重要なプラットフォームになるよう推進していきたいと述べた。理事会において、両校は孔子学院の活動に関する報告を聞き取り、次の段階の発展方向について深く議論を行い、議事日程どおりすべての議事内容を終了した。

岡山商科大学孔子学院は設立されてから今年で 18 年目を迎え、中国語のラジオ講座を特色とし、多レベル対応の中国語講座や多様な文化活動を行ってきた。今回の理事会は 6 年ぶりに現地（大連外国語大学）での開催となり、両校の協力が本格的に常態化したことを示した。

両校は今回の会議が孔子学院の未来の発展に方向を示しただけでなく、両校の全面的な協力深化のために基礎を強めたとの認識で一致した。今後、両校は引き続き手を携え、孔子学院が日中教育協力の成功モデルとなるよう推進し、両国の人的文化的交流の促進のためにより大きな貢献をするよう共に努力していこうとする。

